

まちづくり交付金 事後評価シート
蔵のまち周辺地区

平成21年12月

愛知県半田市

様式2 - 1 評価結果のまとめ

都道府県名	愛知県	市町村名	はんだし 半田市	地区名	(らのまちしゅうへんち) 蔵のまち周辺地区		面積	133ha
交付期間	平成17年度 ~ 平成21年度	事後評価実施時期	平成21年度	交付対象事業費	1,711	国費率	0.375	

1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名								
	基幹事業	提案事業	公園(おおまた公園、こうせい公園)、地域生活基盤施設(知多半田駅東駐輪場、情報板)、高質空間形成施設(バスシェルター、ベンチ)、土地区画整理事業(知多半田駅前地区)								
	事業名		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
	当初計画から削除した事業	提案事業	道路(市道銀座本町中村1号線、市道東本町中村線、市道中村源平運河線、市道中村線、市道中村4号線、市道中村5号線)、公園(2号緑地)、地域生活基盤施設(元井戸広場)			道路:道路整備計画を再検討後に整備した方が、より投資効果が上がると判断したため削除 元井戸広場:土地所有者が個人負担で整備する意向が確認できたため削除			供用中の道路や個人での整備を予定している箇所の変更であり、指標への影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。		
新たに追加した事業	基幹事業	提案事業	地域創造支援事業(赤レンガ環境整備事業)			施設の修景整備を予定していたが、耐震診断結果を踏まえた整備計画の見直しが必要となったため削除			施設の修景整備であり、指標への影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。		
	基幹事業	提案事業	道路((都)名古屋半田線、(都)荒古線)、高質空間形成施設(エレベーター)			名古屋半田線:土地区画整理事業区域外にあたる歩道を合わせて整備するため追加 荒古線:観光施設へのアクセス道路の交通渋滞緩和のため追加 エレベーター:鉄道駅でバリアフリー化を促進するため追加			関連する事業として事業効果をもともと見込んでいた道路や供用中の道路の変更であり、指標への影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。		
交付期間の変更	当初	変更	平成17年度 ~ 平成21年度			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響					
	事業名		提案事業			知多半田駅内バリアフリー化事業:バリアフリーを促進するために鉄道駅にエレベーター及び多目的トイレが必要となったため追加 市民活動支援事業:市民交流センターで行う市民講座等の支援を行うため追加 まちづくり協議会支援事業:JR半田駅前地区におけるまちづくり協議会を支援するため追加			関連する事業としてもともと事業効果を見込んでいたため、指標への影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。		

2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標1	指標2		基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	来街者数	人/日	18,733	H15	20,000	H21		21,016		あり なし	都市基盤や都市の拠点形成が図られたことが乗降客増加につながった。	平成22年6月
	指標2	商業店舗数	店舗	235	H16	235	H21		251		あり なし	都市の拠点機能が強化されたことが商業店舗数増加につながった。	平成22年11月
	指標3	昨の里・酒の文化館の来場者数	人/年	118,000	H13	118,000	H21		136,875		あり なし	歩行空間の充実やPR促進が来場者減少の歯止めにつながった。	平成22年6月
	指標4	住民満足度アンケート調査	%	66.4	H9	70.0	H21		80.1		あり なし	都市基盤や都市拠点の形成やイベントの定着が住民の満足度向上につながった。	平成22年4月
指標5										あり なし			

3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度 ¹⁾	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1	その他の数値指標2		基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
	その他の数値指標1	観光案内所来場者数	人/年	20,609	H18				24,370				快適な歩行空間の形成や定期イベントの実施が来街者増加につながった。	平成22年6月
	その他の数値指標2													
その他の数値指標3														

4) 定性的な効果発現状況
 駅前にある市民交流センターは、平成18年のオープン後、利用者が堅調に伸びており、市の中心地として魅力が高まっている。
 まちづくり交付金を活用した取組により、費用対効果で計れないまちづくりに対する市民の意識が向上したように感じられるとの意見があった。

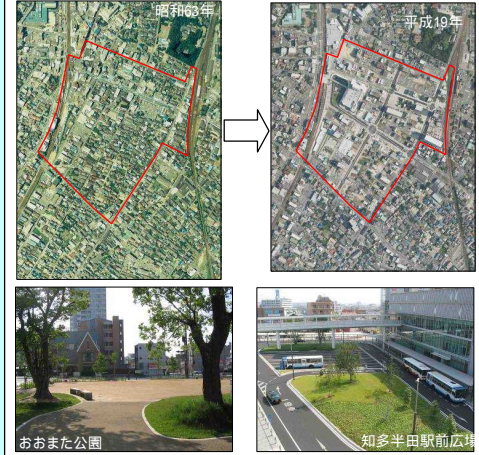
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況		今後の対応方針等	
	モニタリング	住民参加プロセス	持続的なまちづくり体制の構築	実施できた	実施できなかった		
	モニタリング	計画の管理実施 進捗途中での事業の再評価	市民参加によるまちづくり勉強会の実施 中心市街地活性化のためのまちづくり活動の促進 美しい景観づくり	施設の清掃等への住民参加 1 まちづくり勉強会の活動の強化 2 ワークショップから生まれた組織 2	都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	1
住民参加プロセス			都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	1	今後も住民と協働で駅周辺の計画づくりや活性化の取り組み、美しい景観づくりの推進を図る。	
持続的なまちづくり体制の構築				都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	2	まちづくり組織主体の組織運営を進め、市は後方支援にあたる。

様式2-2 地区の概要

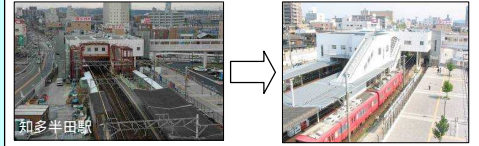
蔵のまち周辺地区(愛知県半田市) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
出会いとにぎわいあふれるまちづくり 歴史・文化・自然等豊かな地域資源を活かし魅力ある観光まちづくりを推進することにより、住民の生活の質の向上と地域経済の活性化を図る。	来街者数	単位: 人/日 18,733 H15	20,000 H21	21,016 H21
	商業店舗数	単位: 店舗 235 H16	235 H21	251 H21
	酢の里・酒の文化館の来場者数	単位: 人/年 118,000 H13	118,000 H21	136,875 H21
	住民満足度アンケート調査	単位: % 66.4 H9	70.0 H21	80.1 H21
	観光案内所来場者数	単位: 人/年 20,609 H18	- H	24,370 H21

土地画整理事業
 ・土地画整理事業により、拠点市街地の形成が図られ、人口の定着が図られている。



バリアフリー化事業
 ・交流拠点として利用促進を図るため、知多半田駅内のバリアフリー化を図った。

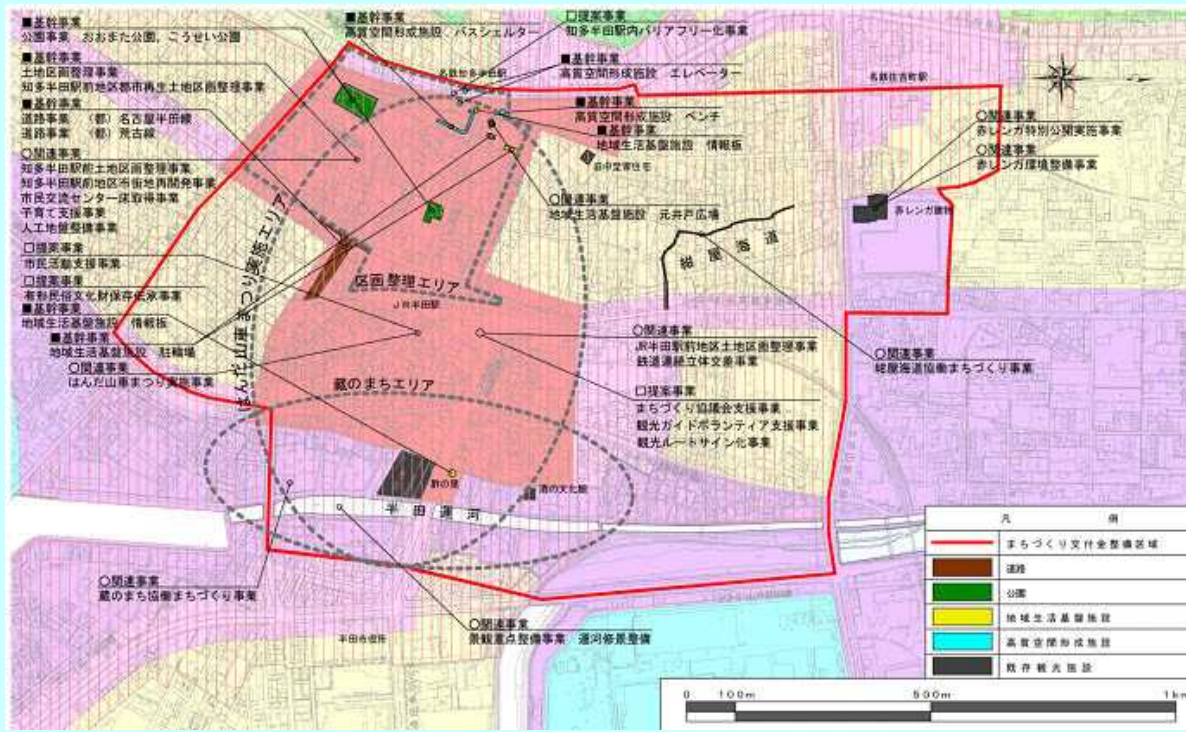


まちの課題の変化

・都市基盤や都市拠点施設の整備が進み、知多半田駅を中心とした広域的な都市拠点の形成が図られ、駅利用者が増加した。今後は、もう1つの玄関口であるJR半田駅周辺の市街地環境改善により、広域交流拠点の機能の強化を図ることが必要である。
 ・安全な歩行空間の整備、案内板の設置、イベントの実施などにより、歩いて観光資源を巡る環境が整備された。今後は、観光資源を活かした商店街の再生や観光施設の整備改善により、まちの賑わい向上を図ることが必要である。
 ・観光資源を活かしたまつりや市民活動団体主体のイベントの認知が広がり、市民と観光客の交流機会が増加している。しかし、現状では、市民と観光客の交流の場がまだ不足しており、新たな交流の場の創出が必要である。
 ・事業により都市基盤が整備されたが、商業者の建物移転に伴う郊外への転出がみられ、これら低未利用地の有効活用が必要な状況となった。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

・生活便利に関わる拠点機能はほぼ整備されたため、今後は周辺の地域資源の活用により、交流機能強化を図る。
 ・点にする観光資源のネットワーク化や駅周辺の商店街との連携により、市民、来訪者が楽しめる空間整備を行う。
 ・一年を通じて半田の歴史や文化にふれられるイベントを実施する。
 ・地域資源が豊富な市街地環境を維持しつつ、安全で快適な市街地環境の整備・改善を図る。
 ・観光客が半田の歴史と文化にふれ、市民と観光客あるいは市民同士が交流できる拠点の整備や仕掛けづくりをする。
 ・駅を中心とした徒歩圏内に都市機能を集約し、暮らしやすい居住環境を整える。



地域生活基盤施設・地域創造支援事業
 ・情報板の設置、イベントへの支援などにより、観光客の誘客を図った。



まちづくり活動推進事業
 (まちづくり協議会支援事業・市民活動支援事業)
 ・住民と行政の協働で、まちづくり計画、イベント等が実施された。



まちづくり交付金 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2 - 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2 - その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2 - 参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3 - モニタリングの実施状況
- 添付様式3 - 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3 - 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4 - 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4 - 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4 - 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5 - 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5 - まちの課題の変化
- 添付様式5 - 今後のまちづくり方策
- 添付様式5 - 参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5 - 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6 - 参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

- 添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標					
B. 目標を定量化する指標					
C. 目標値			2.商業店舗数 従前値:280店舗(H16)、目標値:280店舗(H21)	2.商業店舗数 従前値:235店舗(H16)、目標値:235店舗(H21)	当初は、地区内商店街加盟店舗数を指標としていたが、加盟店舗と実際の商業店舗数に乖離があるため、店舗数の実測値に変更した
D. その他()					

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道銀座本町中村1号線	16	L = 55m	-	なし	住民や見識者の意見を参考にして道路整備計画を再検討後に整備した方が、より投資効果が上がると判断し、H20に計画変更し削除。	鉄道乗降客数や観光施設への来場者数の指標に関連するが、供用中の道路の変更であり、影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	-	-
	市道東本町中村線	50	L = 155m	-	なし	住民や見識者の意見を参考にして道路整備計画を再検討後に整備した方が、より投資効果が上がると判断し、H20に計画変更し削除。	鉄道乗降客数や観光施設への来場者数の指標に関連するが、供用中の道路の変更であり、影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	-	-
	市道中村源平運河線	76	L = 270m	-	なし	住民や見識者の意見を参考にして道路整備計画を再検討後に整備した方が、より投資効果が上がると判断し、H20に計画変更し削除。	鉄道乗降客数や観光施設への来場者数の指標に関連するが、供用中の道路の変更であり、影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	-	-
	市道中村線	118	L = 195m	-	なし	住民や見識者の意見を参考にして道路整備計画を再検討後に整備した方が、より投資効果が上がると判断し、H20に計画変更し削除。	鉄道乗降客数や観光施設への来場者数の指標に関連するが、供用中の道路の変更であり、影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	-	-
	市道中村4号線	23	L = 75m	-	なし	住民や見識者の意見を参考にして道路整備計画を再検討後に整備した方が、より投資効果が上がると判断し、H20に計画変更し削除。	鉄道乗降客数や観光施設への来場者数の指標に関連するが、供用中の道路の変更であり、影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	-	-
	市道中村5号線	32	L = 100m	-	なし	住民や見識者の意見を参考にして道路整備計画を再検討後に整備した方が、より投資効果が上がると判断し、H20に計画変更し削除。	鉄道乗降客数や観光施設への来場者数の指標に関連するが、供用中の道路の変更であり、影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	-	-
	(都)名古屋半田線	-	-	88	L=100m	名古屋半田線の土地区画整理事業区域外にあたる歩道を含わせて整備するためH18に計画変更し追加。	商業店舗数や住民満足度の指標に関連するが、関連する事業として事業効果をもとに見込んでいたため、影響は少ないと考え数値目標は据え置く。	-	-
	(都)荒古線	-	-	202	L=100m	観光施設へのアクセス道路交通渋滞緩和のためH18に計画変更し追加。	鉄道乗降客数や観光施設への来場者数の指標に関連するが、供用中の道路の変更であり、影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	-	-
公園	おおまた公園	120	1,200㎡	19	1,200㎡	計画時より安価な材料で所定の整備ができ、整備費を減ずる必要が生じたため。	住民満足度の指標に関連するが、整備内容の変更であり、影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	-	-
	こうせい公園	100	4,200㎡	50	4,200㎡	地域住民の要望を踏まえ、整備内容を再検討した結果、親水設備等を廃止したことなどにより整備費が縮小したため。	住民満足度の指標に関連するが、整備内容の変更であり、影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	-	-
	2号緑地	3	270㎡	-	なし	緑地予定地の支障物件移転が難航しており、交付期間内での整備が見込めなくなったためH20に計画変更して削除。	住民満足度の指標に関連するが、規模が小さいため、影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	-	-
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	元井戸広場	63	70㎡	-	なし	土地所有者が個人負担で整備する意向が確認できたためH20に計画変更し削除。	鉄道乗降客数の指標に関連するが、個人での整備を予定しているため、影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	-	-
	知多半田駅東駐輪場	68	310㎡	6	310㎡	設置場所を市所有地に変更できる見通しとなり、予定していた用地費用が不要になったため。	鉄道乗降客数や住民満足度の指標に関連するが、整備内容の変更であり、影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	-	-
	情報板	3	7ヶ所	13	7ヶ所	半田市サイン計画の見直しを行った結果。	鉄道乗降客数や観光施設への来場者数の指標に関連するが、整備内容の変更であり、影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	-	-
高質空間形成施設	バスシェルターベンチ	135	1313㎡ 9基	61	520㎡ 1基	事業実施の段階で使用材料を見直した結果、計画時より安価な材料で所定の整備ができたため。	鉄道乗降客数や住民満足度の指標に関連するが、整備内容の変更であり、影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	-	-
	エレベーター	-	-	158	2基	高齢者、障害者へのバリアフリーを促進するために鉄道駅にエレベーターが必要となったためH18に計画変更し追加。	鉄道乗降客数や住民満足度の指標に関連するが、関連する事業としても事業効果を見込んでいたため、影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	-	-
高次都市施設									
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)	知多半田駅前地区	780	17.7ha	554	17.7ha	事業費削減の取り組みにより、当初見込んでいた事業費よりも安価で整備が可能となったため。	商業店舗数や住民満足度の指標に関連するが、事業費の変更であり、影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	-	-
住宅市街地総合整備事業									

1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ¹ (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

¹:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ¹ (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造支援事業	赤レンガ環境整備事業	20	5階建	-	なし	施設の修景整備を予定していたが、耐震診断結果を踏まえた整備計画の見直しが必要となったためH20に計画変更し削除。	鉄道乗降客数や観光施設の来場者数の指標に関連するが、施設の修景整備であり、影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	-	-
	有形民俗文化財保存伝承事業	105	-	56	-	有形民俗文化財保存伝承事業に対する支援事業が予定より早く完了したため	鉄道乗降客数や観光施設の来場者数の指標に関連するが、事業の早期完了に伴う事業費の変更であり、影響は少ないものと考え、数値目標は据え置く。		
	知多半田駅内バリアフリー化事業	-	-	479	-	高齢者、障害者へのバリアフリーを促進するために鉄道駅にエレベーター及び多目的トイレが必要となったため	鉄道乗降客数や観光施設の来場者数の指標に関連するが、関連する事業としてもとも事業効果を見込んでいたため、数値目標は据え置く。		
事業活用調査									
まちづくり活動推進事業	市民活動支援事業	-	-	10	-	市街地再開発ビル内の市民交流センターで行う市民講座、講演会、まちづくりワークショップの支援を行うためH18に計画変更して追加	住民満足度の指標に関連するが、関連する事業としてもとも事業効果を見込んでいたため、影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。		
	まちづくり協議会支援事業	-	-	15	-	JR半田駅前地区におけるまちづくり協議会を支援するためH18に計画変更して追加	住民満足度の指標に関連するが、関連する事業としてもとも事業効果を見込んでいたため、影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。		

¹:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考) 関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
市街地再開発事業		知多半田駅前地区	7,172	7,172	平成13年度 ~ 平成17年度	平成13年度 ~ 平成17年度	完了	
土地区画整理事業		知多半田駅前地区	27,020	27,020	平成7年度 ~ 平成21年度	平成7年度 ~ 平成21年度	95%の進捗率	
景観重点整備事業					平成7年度 ~ 平成10年度	平成7年度 ~ 平成10年度	H16年度 地区指定	
蔵のまち協働まちづくり事業					平成14年度	平成14年度	イベント実施 現在も継続中	
紺屋海道協働まちづくり事業					平成16年度	平成16年度	夏祭り実施 現在も継続中	
はんだ山車まつり実施事業					平成19年度	平成19年度	完了	
赤レンガ特別公開実施事業					平成15年度	平成15年度	イベント実施 現在も継続中	
人工地盤整備事業		知多半田駅前地区	-	190	平成17年度	平成17年度	完了	
市民交流センター公益床取得事業		知多半田駅前地区	-	800	平成17年度	平成17年度	完了	
土地区画整理事業		JR半田駅前地区	-	未定	平成20年度 ~ 平成35年度	平成20年度 ~ 平成35年度	検討中	
鉄道連続立体交差事業		JR武豊線	-	未定	平成20年度 ~ 平成29年度	平成20年度 ~ 平成29年度	検討中	
子育て支援事業		市街地再開発ビル	-	30	平成17年度	平成17年度	施設整備完了。子育て支援を継続。	
人にやさしいまちづくりワークショップ事業			-	2	平成18年度 ~ 平成19年度	平成18年度 ~ 平成19年度	完了	
赤レンガ環境整備事業			-					
元井戸広場整備事業			-					

添付様式2 - 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考) 1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度 2		1年以内の達成見込みの有無	
				基準年度		基準年度		目標年度					あり	なし
指標1	来街者数	人/日	・地区内の鉄道駅(名鉄知多半田駅、住吉駅・JR半田駅)の平成20年度までの乗降客数データから、平成21年度の乗降客数を推計。	22,026	H10	18,733	H15	20,000	H21	モニタリング		モニタリング		
										事後評価	確定見込み	21,016	事後評価	
指標2	商業店舗数	店舗	・平成20年11月時点での最新版の住宅地図及び現地調査をもとに、中心市街地活性化基本計画の区域にある商業店舗数を集計。	-	-	235	H16	235	H21	モニタリング		モニタリング		
										事後評価	確定見込み	251	事後評価	
指標3	酢の里・酒の文化館の来場者数	人/年	・両施設の平成20年度までの年間来場者数データから、平成21年度の来場者数を推計。	172,912	H3	118,000	H13	118,000	H21	モニタリング		モニタリング		
										事後評価	確定見込み	136,875	事後評価	
指標4	住民満足度アンケート調査	%	・平成21年度に実施した半田市市民意識調査で、半田地区における半田市が「(どちらかと言えば)住みよい」とした回答の割合を算出。	-	-	66.4	H9	70.0	H21	モニタリング		モニタリング		
										事後評価	確定見込み	80.1	事後評価	
指標5										モニタリング		モニタリング		
										事後評価	確定見込み		事後評価	

指標	目標達成度 × の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	都市基盤や都市拠点施設の整備が進んだことで、駅周辺の魅力が高まり、鉄道利用者が増加した。	従前値の設定において、平成14年度のJR半田駅の乗降客の計測ミスが確認されたため、目標値を再設定して評価する必要があった。
指標2	土地区画整理事業で都市基盤整備が整い、地区の利便性が向上し、新規商業店舗数が増加した。	商店街加盟店舗数と商業店舗の実態が合っておらず、目標指標を変更して対応した。
指標3	駅や道路の整備による交通アクセスの向上や、情報板設置によるPR促進により、長期的な来場者数の減少に歯止めをかけることができた。	従前値の数値が古く、事業前に目標値を超えていたが、H16との比較により来場者数維持が確認できた。
指標4	土地区画整理事業や駅のバリアフリー化による住環境改善や、市民の視点に立ったイベントの定期開催などにより、住民満足度が大きく向上した。	
指標5		

1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

2 目標達成度の記入方法

・評価値が目標値を上回った場合

・評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

× 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2 - その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考) ¹ 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)	
			基準年度		基準年度							
その他の数値指標1	観光案内所来場者数	人/年	平成18～20年度の観光案内所の来場者数データから、平成21年度の年間来場者数を推計。	-	-	20,609	H18	モニタリング			観光案内所の来場者数は、まちづくりの目標として掲げた「出会いとにぎわいあふれるまちづくり」が構築されたかどうかを確認するため	指標1を補完して観光客の増加を確認する。
								事後評価	確定見込み	24,370		
その他の数値指標2								モニタリング				
								事後評価	確定見込み			
その他の数値指標3								モニタリング				
								事後評価	確定見込み			

¹ 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2 - 参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

駅前にある市民交流センターの利用者は、管理者からのヒアリングにて平成18年のオープン後の活発な利用が確認されており、市の中心地として魅力が高まっていると考えられる。まちづくり交付金を活用した取組により、費用対効果で計れないまちづくりに対する市民の意識が向上したように感じられるとの意見があった。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3 - モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
計画の進捗管理、進捗途中での事業の再評価	予定どおり実施した	[実施頻度] 年1回(各年2月頃) [実施時期] 平成17年～ [実施結果] 各事業の進捗状況を関係各課に確認した。	まちづくり交付金による事業を実施する場合は、定期的な庁内会議により、事業の進捗管理を行うしくみを継続する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった(理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった(理由)		

添付様式3 - 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
まちづくり協議会支援事業(市民のアイデアを反映させ、市民参加によるまちづくりを推進していくための、まちづくり勉強会の実施)	予定どおり実施した	[実施頻度] 勉強会21回、説明会1回 [実施時期] 平成17年～ [実施結果] JR武豊線の鉄道高架化事業、JR半田駅前地区の土地区画整理事業に向け、住民参加によるまちづくり計画を策定し、土地区画整理事業に反映した。	今後も住民と協働で計画づくりを進め、事業実施に向けた合意形成を促進する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった(理由)		
中心市街地活性化のための市民活動支援事業(「半田市市民交流センター」を中心とした、市民の主体的な参画によるまちづくり活動の促進)	予定どおり実施した	[実施頻度] ワークショップ(通算18回)、講座(通算10回) [実施時期] ワークショップ(H18～20年)、講座(H18～20年) [実施結果] 駅周辺や駅前再開発ビルを賑わいのある場所にするため、タウンマネジメント半田(TMO)と連携し、住民組織主体で駅周辺に人を集めるためのしくみづくりを検討し、フリーマーケット及びミニライブの定期的な開催に至った。	今後も住民と協働で駅周辺の活性化の取り組みの推進を図る。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった(理由)		
美しい景観づくり	予定どおり実施した	[実施頻度] 運河サミットin半田(1回) [実施時期] 平成20年2月25日 [実施結果] 市民の景観に対する関心をより高め、良好な景観形成による美しいまちづくりを推進するため、愛知県と共催により景観シンポジウムを実施した。このシンポジウムでは半田運河をはじめとする運河の魅力を市内外にPRし、シンポジウムの開催に併せ、小樽市、日南市および半田市の観光紹介として「物産展」を開催した。	今後も市民と力を合わせ、継続的に美しい景観づくりの支援を行う。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった(理由)		

添付様式3 - 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		体制構築に向けた取組内容	まちづくり組織名・組織の概要	
施設の清掃等への住民参加(クリーンボランティア)	予定どおり実施した	赤レンガ建物の重要性と活用の可能性を広くPRし、建物の保存整備及び活用による街づくりを推進するため、市のクリーンボランティアに登録し、赤レンガ建物内外の清掃・草刈などを行った。	赤煉瓦倶楽部半田 街の歴史的ランドマークでもある半田赤レンガ建物(旧カプトビール工場)の活用を調査研究して、魅力的なまちづくりを進める。	市民自らの手で行うまちづくりのバックアップを継続する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった(理由)			
まちづくり勉強会の活動の強化	予定どおり実施した	自治区の代表者に加え、まちづくり活動に関心のある方の参加など、様々な立場の地権者の参画機会を提供し、組織体制の強化を図った。	JR半田駅周辺まちづくり協議会 JR半田駅周辺の活性化を促進するため、まちづくり検討をおこなった。	まちづくり協議会主体の組織運営を進め、市は後方支援にあたる。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった(理由)			
ワークショップから生まれた組織	予定どおり実施した	市民活動支援事業のワークショップの会を重ねることに関係が深まり、共通認識を持つ仲間が集まって結成。	Yes, We Do!! 名鉄知多半田駅前に賑いを呼び戻すことを目的に平成21年3月に結成。	知多半田駅前おおまた公園でのフリーマーケット&ライブ(2か月に1回開催)を継続して開催する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった(理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4 - 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
まちづくり交付金庁内検討組織	事業関係各課(市街地整備課、防災交通課、市民交流センター、商工観光課、土木課、生涯学習課)	第1回 平成21年7月31日 第2回 平成21年8月27日	市街地整備課(まちづくり交付金主管課)

添付様式4 - 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1	指標2	指標3	指標4	
指標名		来街者数	商業店舗数	酢の里・酒の文化館の来場者数	住民満足度アンケート調査	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	
基幹事業	道路事業(市道銀座本町中村1号線) [削除]	-	土地区画整理事業、再開発事業などで、都市基盤や都市の拠点形成が図られたことにより、駅利用の利便性が高まり、乗降客増加につながったと考えられる。 また、名鉄知多半田駅内バリアフリー化事業により、誰もが利用しやすいように駅の環境が改善されたことや、有形民俗文化財保存伝承事業により、はんだ山車まつりのPR促進されたことも来街者の増加に貢献したと考えられる。	土地区画整理事業による都市基盤整備や再開発事業による核施設の整備により、都市の拠点機能が強化されたことで、商業地の利便性、快適性が向上し、商業店舗数増加につながったと考えられる。	駅や道路の整備による歩行空間の充実や情報板設置などによるPR促進により、観光客の利便性・快適性が向上し、来場者減少の歯止めにつながったと考えられる。	土地区画整理事業、再開発事業などで、都市基盤や都市拠点の形成が図られたことや、市民活動支援事業をきっかけに始まったイベントなどがまちに定着したことなどにより、日常生活圏での利便性向上やまちなかの賑わいや活力が創出され、満足度向上につながったものと考えられる。
	道路事業(市道東本町中村線) [削除]	-				
	道路事業(市道中村源平運河線) [削除]	-				
	道路事業(市道中村線) [削除]	-				
	道路事業(市道中村4号線) [削除]	-				
	道路事業(市道中村5号線) [削除]	-				
	道路事業((都)名古屋半田線)	-				
	道路事業(都)荒古線	-				
	公園事業(おおた公園)	-				
	公園事業(こうせい公園)	-				
公園事業(2号緑地) [削除]	-					
地域生活基盤施設(知多半田駅東駐輪場)	-					
地域生活基盤施設(情報板)	-					
高質空間形成施設(バスシェルター、ベンチ)	-					
高質空間形成施設(エレベーター)	-					
土地区画整理事業(知多半田駅前地区)	-					
提案事業	地域創造支援事業(有形民俗文化財保存伝承事業)	-				
	地域創造支援事業(知多半田駅内バリアフリー化事業)	-				
	まちづくり活動推進事業(市民活動支援事業)	-				
まちづくり活動推進事業(まちづくり協議会支援事業)	-					
関連事業	市街地再開発事業(知多半田駅前地区)	-				
	土地区画整理事業(知多半田駅前地区)	-				
	景観重点整備事業	-				
	蔵のまち協働まちづくり事業	-				
	紺屋海道協働まちづくり事業	-				
	はんだ山車まつり実施事業	-				
	赤レンガ特別公開実施事業	-				
	人工地盤整備事業(知多半田駅前地区)	-				
	市民交流センター公益床取得事業(知多半田駅前地区)	-				
	土地区画整理事業(JR半田駅前地区) (工事未着手)	-				
	鉄道連続立体交差事業(JR武豊線) (工事未着手)	-				
	子育て支援事業(JR半田駅前地区)	-				
	人にやさしいまちづくりワークショップ事業	-				
	赤レンガ環境整備事業 (工事未着手)	-				
元井戸広場整備事業 (工事未着手)	-					

指標改善への貢献度

- ・ 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ・ 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- ・ 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ・ 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	駅を中心として、徒歩圏内に居住環境の充実を図る。	市民や来訪者が楽しめるよう、商店街との連携を強化する。	観光資源をネットワークする散策ルートの整備やイベントによるPR促進を図る。	高齢化社会への対応や、防災・防犯の視点から安全で快適に暮らせるまちづくりを推進する。
-------	--------------------------	-----------------------------	---------------------------------------	--

添付様式4 - 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		その他指標1					
指標名		観光案内所来場者数					
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路事業(市道銀座本町中村1号線) [削除]	-	駅や道路の整備、情報板設置などによる快適な歩行空間の形成や、紺屋海道協働まちづくり事業や赤レンガ特別公開実施事業などの定期イベントによる市民、来街者の交流機会創出などにより、駅利用の来街者が増加したものと考えられる。	-		-	
	道路事業(市道東本町中村線) [削除]	-					
	道路事業(市道中村源平運河線) [削除]	-					
	道路事業(市道中村線) [削除]	-					
	道路事業(市道中村4号線) [削除]	-					
	道路事業(市道中村5号線) [削除]	-					
	道路事業((都)名古屋半田線)	-					
	道路事業((都)荒古線)	-					
	公園事業(おおまた公園)	-					
	公園事業(こうせい公園)	-					
	公園事業(2号緑地) [削除]	-					
	地域生活基盤施設(知多半田駅東駐輪場)	-					
	地域生活基盤施設(情報板)	-					
	高質空間形成施設(バスシェルター、ベンチ)	-					
高質空間形成施設(エレベーター)	-						
土地区画整理事業(知多半田駅前地区)	-						
提案事業	地域創造支援事業(有形民俗文化財保存伝承事業)	-		-		-	
	地域創造支援事業(知多半田駅内バリアフリー化事業)	-					
	まちづくり活動推進事業(市民活動支援事業)	-					
	まちづくり活動推進事業(まちづくり協議会支援事業)	-					
関連事業	市街地再開発事業(知多半田駅前地区)	-		-		-	
	土地区画整理事業(知多半田駅前地区)	-					
	景観重点整備事業	-					
	蔵のまち協働まちづくり事業	-					
	紺屋海道協働まちづくり事業	-					
	はんだ山車まつり実施事業	-					
	赤レンガ特別公開実施事業	-					
	人工地盤整備事業(知多半田駅前地区)	-					
	市民交流センター公益床取得事業(知多半田駅前地区)	-					
	土地区画整理事業(JR半田駅前地区) (工事未着手)	-					
	鉄道連続立体交差事業(JR武豊線) (工事未着手)	-					
	子育て支援事業(JR半田駅前地区)	-					
	人にやさしいまちづくりワークショップ事業	-					
	赤レンガ環境整備事業 (工事未着手)	-					
元井戸広場整備事業 (工事未着手)	-						

指標改善への貢献度

- ・事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ・事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- ・事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ・事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	観光資源をネットワークする散策ルートの整備やイベントによるPR促進を図る。			
-------	---------------------------------------	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5 - 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
まちづくり交付金庁内検討組織	事業関係各課(市街地整備課、防災交通課、市民交流センター、商工観光課、土木課、生涯学習課)	第1回 平成21年7月31日 第2回 平成21年8月27日	市街地整備課(まちづくり交付金主管課)

添付様式5 - まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
都市機能面及び、景観上からも、半田市の玄関口として観光客を迎えるための広域的交流拠点の整備が必要である。	都市基盤や都市拠点施設の整備が進み、知多半田駅を中心とした広域的な都市拠点の形成が図られつつある。	広域交流拠点の機能のさらなる向上を図るため、もう1つの玄関口であるJR半田駅周辺の市街地環境改善が必要である。	事業により都市基盤が整備されたが、商業者の建物移転に伴う郊外への転出がみられ、これら低未利用地の有効活用が必要な状況となった。
運河、蔵、酢の里、酒の文化館、赤レンガ建物といった十分な観光資源を有しているながら、それがまちの賑わい創出に生かされていない。	安全な歩行空間の整備、案内板の設置、イベントの実施などにより、歩いて観光資源を巡る環境が整備された。	まちの賑わい創出のため、観光資源を活かした中心市街地内の商店街の再生が必要である。観光施設の老朽化に対応し、施設の整備改善が必要である。	
本市そのものが観光都市ではなかったため、市外から訪れる人を歓迎する意識が弱く、そういった視点でのまちづくりがなされていない。	観光資源を活かしたまつりや市民活動団体主体のイベントの認知が広がり、市民と観光客の交流機会が増加した。	現状では、市民と観光客の交流の場と機会がまだ不足しており、今後より広範囲に市民と観光客の交流を図るため、新たな交流の場と機会の創出が必要である。	
中部国際空港の開港、愛知万博の開催のチャンスを活かし観光客の増加につなげていく必要がある。	市の玄関口として知多半田駅周辺が整備されたことにより、駅利用者が増加した。		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5- A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5- B欄に記入します。

添付様式5 - 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	広域交流拠点の機能拡充	生活利便に関わる拠点機能はほぼ整備されたため、今後は周辺の地域資源の活用により、交流機能強化を図る。	イベント・コンベンションの誘致 サイン整備事業
	駅を中心とした歩行空間の充実	点在する観光資源のネットワーク化や駅周辺の商店街との連携により、市民、来訪者が楽しめる空間整備を行う。	観光ルートの整備 商店街プロムナード事業
	市民と観光客の交流機会の継続	一年を通じて半田の歴史や文化にふれられるイベントを実施する。	季節ごとのイベントの実施 景観スポットのPR 山車まつりへの誘客支援 名鉄駅構内への看板整備

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	JR半田駅周辺の市街地環境改善	地域資源が豊富な市街地環境を維持しつつ、安全で快適な市街地環境の整備・改善を図る。	JR半田駅前土地区画整理事業 JR半田駅前地区のまちづくり勉強会 市役所庁舎の整備 アイブラザの活用
	市民と観光客の交流の場と機会の創出	観光客が半田の歴史と文化にふれ、市民と観光客あるいは市民同士が交流できる拠点の整備や仕掛けづくりをする。	歴史的資源の活用 半田運河周辺の広場・景観道路の整備 半田赤レンガ建物の改修整備 季節ごとのイベントの実施
・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	商店街の再生 低未利用地の活用促進	駅を中心とした徒歩圏内に暮らしやすい居住環境を整える	空き地・空き店舗対策

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

様式5 - の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

<input type="checkbox"/>	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4 -)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4 -)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	残された課題や新たな課題(添付様式5 -)を再確認した。

添付様式5 - 参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

行政区域を越えた連携・協力体制を強化し、中部国際空港などからの誘客に向けた観光資源のPR促進を図る。

添付様式5 - 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-1、2-2に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-1、2-2から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が「又は×」の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	来街者数	人/日	18,733	H15	20,000	H21	確定 見込み	21,016		あり なし	→	平成22年6月	地区内にある鉄道駅(名鉄知多半田駅、住吉駅・JR半田駅)の乗降客数データから、平成21年度の1日あたりの乗降客数を算出。	
指標2	商業店舗数	店舗	235	H16	235	H21	確定 見込み	251		あり なし	→	平成22年11月	平成22年11月時点での最新版の住宅地図及び現地調査をもとに、中心市街地活性化基本計画の区域にある商業店舗数を集計。	
指標3	酢の里・酒の文化館の来場者数	人/年	118,000	H13	118,000	H21	確定 見込み	136,875		あり なし	→	平成22年6月	両施設から平成21年度の来場者数入手。	
指標4	住民満足度アンケート調査	%	66.4	H9	70.0	H21	確定 見込み	80.1		あり なし	→	平成22年4月	アンケート調査により、半田地区における半田市が「(どちらかと言えば)住みよい」とした回答の割合を算出。	
指標5				H		H	確定 見込み			あり なし	→			
その他の数値指標1	観光案内所来場者数	人/年	20,609	H18			確定 見込み	24,370			→	平成22年6月	観光協会から平成21年度の観光案内所来場者数入手。	
その他の数値指標2				H			確定 見込み				→			
その他の数値指標3				H			確定 見込み				→			

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	指標2の商業店舗数の指標について、モニタリングで実態に合っていないことがわかったため、指標を変更することで、実態に合った事業の効果を計ることができた。	定期的にモニタリングを実施し、必要に応じて適正な数値目標や指標設定に見直すことが有効である。
	うまくいかなかった点	指標1の鉄道乗降客数の従前値の設定について、平成14年度のJR半田駅の乗降客の計測ミスが確認されたため、目標値を再設定して評価する必要があった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	市民活動支援事業をきっかけに、市民団体組織が立ち上がり、市民主体のまちづくりの取り組みが活発化した。	市民主体の取り組みを推進することは、住民のニーズに応じた効率的で効果的なまちづくりを行うために有効である。
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	定期的なモニタリングの実施により、進捗状況を確認しながら、事業を計画的に進めることができた。	モニタリングの実施は、事業の進捗状況の確認、適正な事業の見直しができるため、有効である。
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点	平成18年度に半田市産業・観光振興計画を策定し、他部署と連携・情報共有を図ることで、事業を円滑に進めることができた。	他部署と情報共有・連携を図りながら事業を推進することが必要である。
	うまくいかなかった点		

添付様式6 - 参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

【今後のまちづくり交付金の活用予定】

蔵のまち周辺地区を含む半田運河蔵の街・ごんぎつねの里地区(922ha)において、都市再生整備計画(平成22年度～平成26年度)を作成し、まちづくり交付金を活用して事業を展開する。

【今後の事後評価を予定する地区】

本市においては、平成22年度に半田乙川中部地区、平成26年度に半田運河蔵の街・ごんぎつねの里地区において事後評価を実施予定。当地区の事後評価の経験を踏まえて、円滑に事後評価を実施したい。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成21年10月16日～10月30日	平成21年10月16日～10月30日	半田市市街地整備課を受付窓口として、窓口への意見書・電子メール・FAXにより意見を受け付ける	市街地整備課(まちづくり交付金主管課)
広報掲載・回覧・個別配布	市の広報に市街地整備課窓口及びホームページで原案を公表している旨を掲載	半田市報平成21年10月1日号	-		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	市街地整備課窓口での閲覧	平成21年10月16日～10月30日(土日除く)	平成21年10月16日～10月30日(土日除く)		

住民の意見	意見なし
-------	------

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	瀬口 哲夫 名古屋市立大学大学院 教授	平成21年11月18日	市街地整備課(まちづくり交付金主管課)	半田市まちづくり交付金評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	野々村照義 半田ランプリングタウン協同組合専務理事 水野 尚美 市民活動団体 Yes, We Do!!の会員				

審議事項 1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	商店街店舗数や観光施設来場者数について、表や図面を用い、毎年チェックできるようなかたちにするとよいとの意見があった。まちづくり交付金を活用した取組により、費用対効果で計れないまちづくりに対する市民の意識が向上したように感じられるとの意見があった。
	実施過程の評価	まちづくり勉強会の活動の強化において、女性の参加が表現されているが、女性もまちづくり活動に関心のある方に含まれるため、削除を行う。 既存の団体においても活発な住民参加が確認できたため、今後も継続できるようにして欲しいとの意見があった。
	効果発現要因の整理	はんだ山車まつりの際には、酢の里・酒の文化館の入場がフリーであり、この間の入場者数が計測されていないため、これらも考慮した分析ができるとよいとの意見があった。
	事後評価原案の公表の妥当性	公表に対する市民の反応が小さいため、意見に係る目標数値を立てることや、公表方法や公表内容について一層の工夫を図ることが必要との意見があった。
	その他	特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	市民参加でまちづくりを進めていく上で、市民と観光客の交流に加え、市民同士の交流も重要との意見があった。 市民と観光客の交流の場について、歴史的資源の活用を図るとよいとの意見があった。
	フォローアップ	特になし。
	その他	整備を行うときに、直接の利害関係者の方以外からも意見がもらえるような体制が整備されるとよいとの意見があった。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	特になし。	

1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。